

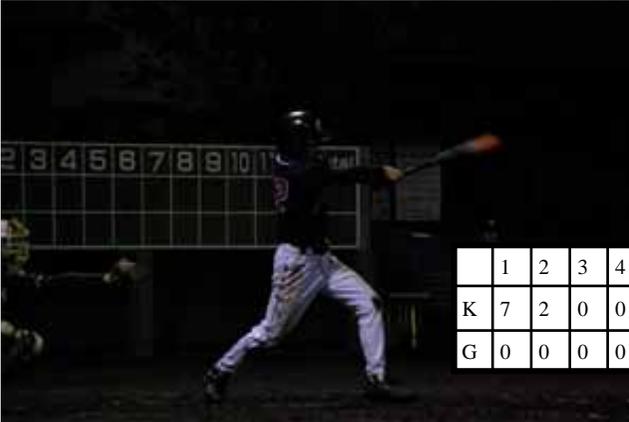
# ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第 7号 平成22年 4月18日

元気の無さが結果に反映！ 達脇乱調・守備もお粗末・・・

一人気を吐いた竜！



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R
K	7	2	0	0	0	1				10
G	0	0	0	0	0	0				0

4 / 17 (土) 瀬谷本郷公園野球場にて、チーム発足以来の強豪である、球殿クラブとオープン戦を行った。昨日までの降雨による、グラウンド不良の懸念があったが、公園事務所の球場メンテのお陰で、無事ゲームをする事が出来た。ただ、日中の太陽が弱かったせいで、状態は重く、足元が拘われる懸念が残ったまま、ゲームが開始した。今日のマウンドを託されたのは、達脇。我がチームは後攻。初回相手の攻撃、先頭打者を四球で歩かせ、続く打者には、内野安打を記録され、早くも無死1・2塁のピンチ。しかし、達脇の投球には、いつもの冴えが見られない。続く打者の打球は、フラフラと二塁後方に上がった打球、これが取れずに、早くも先制を許す。4番には、ライトに上がった飛球を野手の目測誤り、2塁打とし、この回だけで、投球数52・打者11人、被安打5・2四球・失策2で7点を献上した。強豪に初回から7点を与え、この先は、何点取られるのか？という不安もあったが、達脇は悪いなりに修正し、2回は1四球・2失策で、2点を与え、この時点でゲームは9：0の状態。3回は、2つの四球・1失策という状況であったが、0点に抑え、マウンドを降りた。我が方の攻撃だが、相手の巧みなピッチングで、4回までは凡打の繰り返しで見せ場なし。達脇の後は、林がマウンドに上がり、1失点を期すものの、打たせて取るピッチング及び巧みな牽制で、既に相手チームに盗塁6を記録されていたが、預かった3回を盗塁0にも抑さえ、余裕すら感じるマウンド裁きであった。そして、打線の唯一の見せ場が、5回に訪れた。今日2つの盗塁を刺している竜が、6球粘った7球目を綺麗にセンターに運び、今日初の安打で出塁、続く佐藤は、死球で出塁、そして、好手と失策を繰り返した瀧本が、5球目をレフト前に運び、無死満塁とした。この場面に好投をした林、彼のバットにベンチは注目した。3つのボールが先行した4球目を叩きつけたが、打球は投手のグラブに納まり、ホームゲッターかと思ったが、一塁手のエラーにより、依然一死満塁のチャンスは続く、しかし、後続2人が倒れ、絶好の得点チャンスを逸し、このままゲームセットとなった。

振り返ってみると、守備の拙さが目立ったゲームであった。記録は6個(今期ワースト)だが、記録にならないエラーも有り、これでは、投手はたまったものではない。乱調だっただけに、アウトに出来るシーンは、確実に捕球し、投手を支えなければならない。エラーは結果だが、投手にすまない、と声を掛け、気持ちを切り替えなければならないに、やってしまった事を感じすぎて、プレーが萎縮しているようにも見えた。また、声出して投手を盛り上げて、とベンチの声があったが、萎縮している状態及び、投手自身が乱調と感じている場面では、どうしても声が掛けづらくなるし、その投手の反応も悪くなる。まさに負の連鎖、この変は更なる盛り上げが必要だと感じた。強豪と戦った後は、自チームの弱さ及び、各人の悪さも見えたことであろう。折角感じたこの思いを自身で感じ、次のゲームに備えよう。まだ、シーズンは始まったばかりだから・・・